

日本鉄鋼協会記事

理事会

第9回理事会 開催日：12月19日。出席者：武田副会長他32名。

会議事項

1. 鉄鋼技術国際会議組織委員会の設立に関する件
鉄鋼技術国際会議は準備委員会で検討してきたが、ほぼ全体の構想がまとまつたので本格的に取り組むため組織を改めることになった。最高機関に Organizing Committee を置き、さらに Executive Committee と Financial Committee を置き、さらに Executive Committee の下に General Administrative Committee, Technical Committee および Editorial Committee for the Proceeding を置くことを決定した。

2. 次期役員候補者選考委員会委員委嘱に関する件
下記の通り委嘱することを決定

佐野会長、武田、橋口各副会長、荒木編集、吉崎企画、三木研究各委員長、松下、三島、山岡、伊藤、沢村、角野、塙沢、浅田、湯川各前会長

3. たたら製鉄法復元計画委員委嘱に関する件
下記の通り委嘱することを決定した。

湯川八幡製鉄副社長、的場富士製鉄副社長、中野日本钢管専務、藤本川崎製鉄社長、外島神戸製鋼社長、小出住友金属専務、小林日本製鋼社長、林大同製鋼副社長、宮下日立金属副社長、(委員長 松下東大教授)

4. 第8回国際工業材料展協賛に関する件

主催 日刊工業新聞

期日 昭和43年3月9日～14日

会場 東京都立産業会館

協賛することに決定。

企画委員会

第9回委員会 開催日：12月15日。出席者：吉崎企画委員長他19名。

会議事項

1. 一般表彰選考委員会委員に関する件

委員長 佐野会長

委員 橋口、武田各副会長、荒木編集、吉崎企画、三木研究各委員長、三島、山岡、沢村各前会長、木下製鉄課長

上記の構成案を企画委員会として決定。

2. 特別表彰選考委員会委員に関する件

委員長 会長

委員 武田、橋口各副会長、山岡共同研究会幹事長、荒木編集、吉崎企画、三木研究各委員長、三島俵賞受賞者、河田表彰奨励選考分科会主査、俵監事田畠専務理事

上記の構成案を企画委員会として決定。

3. 鉄鋼技術国際会議組織委員会の設立に関する件

田畠専務理事より鉄鋼技術国際会議の開催について

準備委員会で検討中のところ、ほぼ構想がまとまつたので、準備委員会に代わって組織委員会を設けることにしたいと概略説明があつた。参加人員は800～1000名位におさえる。これに対し鉄鋼材料とその基礎、鉄鋼の塑性加工の範囲を明瞭にする必要があるとの意見が述べられ、実行委員会で検討することになった。

4. 講演会、講習会について他団体から共催または協賛依頼する場合の処理について他学協会等より共催または協賛依頼のある講演会、シンポジウム、講習会が年々増加し、当協会研究活動との関連も深いものが多く、従来全く研究委員会を通さなかつたのを改める。研究委員会だけで検討する場合、会社等に対する一般募金を行なわないことを確認の上承認するよう要望された以外は原案通り決定した。

編集委員会

第11回和文会誌分科会

開催日：1月9日。出席者：荒木主査他20名

会議事項

1. 論文審査報告

審査報告46件のうち掲載可17件、修正17件、返却12件が決定された。

2. その他

新着原稿件の査読、校閲委員決定。

依頼論文の推薦1件があり承認された。

第6回講演大会分科会

開催日：1月12日。出席者：草川主査他19名。

会議事項

1. 第76回講演大会の期日は東北大学側の都合により9月21日～23日になると報告された。

2. 第76回講演大会シンポジウムテーマは次のような候補があげられ次回審議することとなつた。

(1) 高炉プロセスの反応工学

(2) 転炉操業の自動制御

(3) 鋼の脆性破壊

(4) 金属間化合物による鉄鋼の析出硬化、など。

ほかに金属学会からの申し入れで、集合組織に関する共催討論会も検討することとなつた。

3. 講演大会運営に関する提案が事務局より出され、拡大した講演大会をよりよい方向に持つていくために活発な意見が交わされたが、次回また検討されることになつた。

第10回出版分科会

開催日：12月20日。出席者：佐藤主査他11名。

会議事項

1. 鋼の熱処理執筆者選定について

目次、内容およびページの割り振りの最終的確認のうち、推薦依頼をして回答のあつた項目および執筆者を確認した。

2. 「鋼の熱処理」執筆要綱について

追加項目について、丸善が文章を修正の上追加することになった。

3. 書名について

「新版鋼の熱処理」とすることになった。

共同研究会

钢管部会

第9回部会 開催日：12月11, 12日。出席者：井上主査他81名。

会議事項

1. マンネスマンプラグミルの偏肉について
今までに継続無分科会で検討されてきた結果がまとめられ、八幡钢管より発表があつた。
2. 最近の押出し法の動行
他のプロセスとの比較（生産量、特徴等）
最近の動行（大型化、ストレッチャーデューサーの使用、連鉄材の使用等）について住金より発表があつた。
3. レデューサー設備の概要
各社よりレデューサー設備総括の紹介があつた。
4. 高周波抵抗溶接機における溶接速度の算定式について
設備能力算定式作成の際生じた問題点について、日本钢管より発表があつた。
5. 鍛接管工場に稼働状況について日本钢管より発表があつた。
6. 実用試験の理論上規格上の意味について、前回各社提出資料のまとめが発表された。
7. 工場見学
第1日目、八幡钢管東京、第2日目、日本钢管川崎製鉄所の見学を行なつた。

鉄鋼生産設備能力調査委員会

钢板部会

第7回ホットストリップ設備分科会 開催日：12月11, 12日。出席者：吉田主査代理他16名。

会議事項

- ネック設備別、および板厚の厚、薄別に T/Hr の実績：理論比を分類集計し検討した。
また、算定方式による T/Hr と最近の実績 T/Hr の比を計算し、どの程度一致しているかをチェックした。
さらに、今回見直した算定方式で各社および全国のホッ

ストリップミルの生産能力がどれくらいになるかを試算してみた。この答申案の内容を確認し、最終決定をする会を1月初めに催すこととした。

標準化委員会

ぶりき分科会

第2回分科会 開催日：12月14日。出席者：安藤主査他23名。

会議事項

一次原案と、各社から提出されたコメントに基づいて、討議が行なわれた。適用範囲、種類、製造方法、品種、表面仕上げ、形状寸法、寸法許容差などについて、意見が交換された。これに基づいて、幹事会社が第二次原案を作成し各社に配布し、これに対する各社のコメントを出していただき、次回分科会においてさらに審議を進めることになった。

JIS みがき棒鋼規格原案分科会

第1回分科会 開催日：12月22日。出席者：中村主査他23名。

会議事項

工業技術院の水野技官より、これまでの経緯についての説明があつてから、議事に入つた。まず、京都磨鋼材の山下要員から素案作成にあたつての考え方、問題点などについて詳細な説明があつた。この素案に対して、ユーザーの立場から意見を述べることになり、主として、ねじ工業会から意見が述べられ、これを中心に質疑応答が行なわれた。次回分科会は、43年2月中旬開催することになった。

クリープ委員会

第2回金材技研クリープデータ連絡会

開催日：12月15日。出席者：田中主査他27名。

会議事項

昭和43年度に金材技研材料試験部に対しガスターピン関係の材料のクリープデータシート作成を要望することになり、鋼種選定に先立ち代表的タイプのターピンにつき、構造、使用材料などの概略が説明された。

1. 発電用ガスターピン
東芝、三菱重工、富士電機
2. 航空機用ガスターピン
石川島、三菱重工

新入会員氏名

(昭和42年12月1日～31日)

維持会員

三井物産(株)

正会員

口石 茂松 (株)神戸製鋼所神戸

小浜 豊喜

進 貴志

副島 利行

藤井 雅光

前田 征良

宮下 隆夫

金子 進

鈴木 清

南無 哲朗

前田 忠義

兼貞 寛大

前田 正文

川谷 洋司

落合 淳宏

若杉 勇

岩鼻 孝一

富士製鉄(株)釜石

大井 芳郎

小池 隆一

中宮 勇輔

最上 鈺一

横田 典之

内田 虎男

川村 和郎

北村 征義

坂本 徹

若林 正邦

渡辺 国男

河村 典雄

佐藤 豊雄

鈴木 秀幸

中尾 仁二

苦瓜 顕一

塩崎 守雄

柳樂 稔 富士製鉄(株)広畑

有浦 靖 八幡製鉄(株)東研

伊藤 薫 //

田中 满生 //

杉山 喬 //

土屋 勝 //

尾野 均 //

山川 洋 //

金子 進 戸畠

飯田 豊 住友金属工業(株)

中技研

高砂 //

小若 正倫 //

今野 誠 //

高橋 信一 //

三浦 武義 川崎製鉄(株)千葉

橋本 弘 //

山田 隆康 //

渡辺 敏信 //

田口 芳男 西宮

南 参 技研

栄 豊幸 日本ステンレス(株)

直江津

鋸屋 正喜 //

後藤勇太郎 日本钢管(株)技研

星野 正 理研製鋼(株)

宮下 正文 (株)日本製鋼所室蘭

塗木 三男 日本金属工業(株)

相模原

山本 良二 日立金属(株)安来

金原 茂 日本特殊鋼(株)

竹内 成一 浪速製鋼(株)

小坂 鎮雄 愛知製鋼(株)

柳沼 広治 鴨川工業(株)

寺門 行彦 愛知製鋼(株)

宇津木 尚 太平金属工業(株)

奥河 理英 大日日本電線(株)

田村純治郎 東海特殊鋼(株)尼崎

斎藤 誠 大同製鋼(株)中研

河野 辰三 山陽特殊製鋼(株)

浜田 晋作 三井造船(株)

吉沢 昭宣 東京大学

細川 智生 岡山大学

高木 正浩 九州大学

近江 宗一 大阪大学

学 生 会 員

鉄鋼短期大学鉄鋼科

井上 政行 //

牛窪 美義 //

大原昭七郎 //

落合 和夫 //

箕浦 孝 //

中西 瞳夫 京都大学工学部大学院

藤原 正二 //

朝生 一夫 京都大学工学部

小島 和夫 //

谷中 秀臣 東北大学大学院

工学研究科

保木本勝利 東北大学工学部

小形 勝 東京工業大学金属

工学科

平井興二郎 //

石井 晃 秋田大学鉱山学部

鎌田 真一 //

小坂 勝敏 東京大学工学部

園元 隆夫 千葉工業大学金属

工学科

柴田 宗捷 大阪府立大学工学部

向山 保 東京電機大学工学部

外 国 会 員

American Ceramic (U.S.A.)

Society

R. Berger (Belgium)

廖 栄 洲 (中華民国)

日本鉄鋼連盟創立20周年記念懸賞論文募集

日本鉄鋼連盟は本年11月をもつて創立20周年を迎えますので、これを記念し、下記要領により懸賞論文を募集いたします。奮ってご投稿ください。

<要 項>

論 文 “日本鉄鋼業の展望と問題点”

内容は日本鉄鋼業の将来について、一般的な、あるいは総合的な立論でもよく、または生産・原燃料・需給・経営・技術管理・労働・業界体制など個別的な研究でも結構です。
一題につき400字詰原稿用紙20~25枚

昭和43年8月末日

1等10万円1編 2等5万円2編 3等2万円若干編

業界および学界の学識経験者による審査委員会の審査によります。(委員は追つて発表)

当連盟発行「鉄鋼界」昭和43年11月号に審査結果を発表し、逐次入選論文を掲載します。

原稿には住所・氏名・職業・年令をご記入下さい。

お問合せは当連盟(電話279-3611)広報部出版課宛願います。

送り先

東京都千代田区大手町1の5の7 日本鉄鋼連盟広報部